

第3回 市長と語ろう「まちづくりふれあいトーク」

開催日時 平成21年9月1日（火）午後6時30分～

場 所 釧路公立大学1階 教員談話室

テ ー マ まちづくりと町内会

（開会のあいさつ）

【市長】

今日は、お集まりいただきありがとうございます。

まちづくりふれあいトークは、1回目は「子育て」をテーマに開催しまして、2回目は「環境」をテーマに釧路川の美化活動をしている方々で行いました。3回目は、公立大学で開催させていただくことになりました。ありがとうございます。

皆さんは、さまざまなボランティアに取り組んでいるということで、いろいろ教えていただけることもあると思いますし、また、今日のテーマは「まちづくりと町内会」ですが、このテーマにしばられることなく、いろいろな皆さんの視点を聞かせていただきたいと思います。

釧路公立大学は、市民にとって大切な財産だと思っています。鱈淵市長時代に公立大学を作りました。釧路には教育大学がありますが、この地元に若い人たちの拠点としての公立大を作る、これは極めて大きな決断だったし大変ご尽力されたと思います。釧路でも少子化が進んでいます。私も高校までは釧路で大学は東京です。札幌等にも行く人がたくさんいますのでその世代が釧路から居なくなってしまいます。しかし公立大学があることで、皆さんのように20代前半の方たちが釧路に居てくれ、活動してくれています。皆さんの意見をしっかり聞いて、よい形を作っていこうと思っています。緊張せず気軽な気持ちでお話いただければと思います。

（会の活動及び参加者紹介）

【参加者A】

釧路公立大学ボランティアサークルについて説明します。

現在、部員総数50人以上の大所帯で活動しています。活動内容は、小学校の子ども達と遊んだり勉強を教えたりする子ども教室をはじめ、ふれあい広場やアミティフェスタ、イルミネーションなど、さまざまな地域に密着したボランティア活動をしています。

それでは、今日の参加者を紹介します。

【参加者B】

僕は、出身が大阪です。特に、ボランティアの活動をしていたわけではないのですが、このサークルを知り、せっかく釧路に来たので、何か釧路の役に立てないかと思って入りました。

【参加者C】

僕は今年からこのサークルに入りました。1・2年は勉強がとても忙しかったのですが、3年になり時間に余裕ができたことから、以前からボランティアに興味があったことと人のために貢献



できたらと思って入りました。まだ半年ほどですが、参加したイベントなどで、市民の人に「ありがとう」と言ってもらえたのがうれしかったです。

【参加者D】

私は、大学内のサークルだと交流する人が大学生同士の狭い範囲になってしまうと思いました。このサークルだと、釧路市や釧路町など地域に密着した人たちと交流が図られると思ったので入りました。

【参加者E】

僕は帯広出身です。小学生のころ、イベントに参加したボランティアの経験があったので、その経験を活かしていこうと思ってこのサークルに入りました。

【参加者A】

僕は、高校生のときから、大学に入ったらこのようなサークルに入ろうと決めていました。高校のときに、野球と勉強しかやってなかったのですが、母がケガをして自宅から離れた病院に入院したのですが、家のことは父に任せて僕はほとんど手伝わなかったんです。母が治ったあと、今度は父が体調を悪くしてしまいました。父に負担を掛けすぎていたことを反省して、大学に入ったら自分のこういうところを変えたいと思っていたので、このサークルに入りました。

【市長】

ボランティア活動をされていると、さまざまな人と関わりますね。

【参加者D】

大学生だけではなく社会人や、小学校での子ども教室のように小学生とも交流を深めていて、幅広くいろいろな人とコミュニケーションが取れています。

【市長】

市のイベントなどでもボランティアの方たちが多く協力してくれていますが、積極的にかかわってくれている人は多いですか。

【参加者A】

そうですね、社会人の方もとても意欲的です。

【市長】

そうですね、イルミネーションは青年会議所の事業ですね。アミティフェスタも一生懸命に取り組んでいる方たちが多いです。何回くらいこのような活動をしているのですか。

【参加者A】

各イベントはその時だけですが、小学校への訪問というのは1年間通して行っています。

【市長】

小学校の子ども教室ではどのようなことをやっていますか。

【参加者A】

子ども達は授業が終わって家に帰ったら、ゲームなどをして過ごすことが多く、学校で遊具を使って遊ぶということがなくなってきているので、教室を開いて子ども達に学校で遊ぶ楽しさを知ってもらうことと、勉強も教えています。

【市長】

そうですね、皆さん精力的に活動されているのですね。

(提 言)

【参加者A】

それでは、まちづくりふれあいトークのテーマ「まちづくりと町内会」について、釧路公立大学ボランティアサークルの提言を述べさせていただきたいと思います。

1つ目ですが、公立大学生は芦野地区等に一人暮らしをしている人が多く、僕もその1人ですが、町内会があるという実感がありません。活動内容や加入方法もわからない状況です。

入会や活動参加を促進するためには、町内会の活動をPRするべきではないかと思います。

【参加者C】

2つ目の提言は、今、町内会自体の規模が小さくなりつつあると思います。その理由には、人口が減っている、町内会に入る人自体が減っているということだと思うのですが、その中で、1つの町内会だけで活動していくには規模も小さくなり、限界がくると思うのです。このままにしておくと町内会はいずれ、ほとんど無くなってしまおうと思います。そこで、例えば、1丁目町内会、2丁目町内会など、違う町内会同士で今後活動していくべきではないかと思いました。

【参加者A】

3つ目ですが、現在、若い人が加入しないという問題があると思います。解決するためには、子ども達がより町内会の行事に参加するということが必要不可欠だと思います。子ども達が町内会行事への参加を促進するために、子どもがいる家庭などに町内会行事をもっとPRするべきではないかと思いました。



(大学生への町内会活動のPR)

【市長】

ありがとうございます。皆さんからお話をいただきましたが、まず、町内会の加入率がどんどん下がってきていて、50%を切っているというのが釧路市の状況です。札幌でも70%となっていますので、釧路は低いということになります。これが今大きな課題となっていて、町内会の加入促進月間を10月に作って進めていこうとしています。

そもそも、「町内会とは」ということになると、それぞれの時代で求めるものや役割が変わってきました。代表的なのがお葬式です。今は、斎場などがありますが、昔は地区会館などで行っていました。そうすると、食事の用意や受付は町内会が担ってきました。このような助け合いが日本の文化です。こういうことが町内会の1つの大きな役割としてありました。

併せて、都市基盤の整備がありました。私や皆さんのご両親が幼いころは、砂利道が多く下水道が整備されていない所もたくさんありました。それで、自分たちが住む所の道路や下水道を整備してくださいと申し出る役割を町内会が担っていました。

それが、現在ではお葬式は斎場があるので町内会の手伝いが必要なく、また完璧ではありませんが、道路なども整備されてきています。こういう状況から町内会に入るメリットがない、町内会の活動もわからないと言われるようになっていきます。

また、今は1年間に生まれる子どもが110万人くらいですが、昭和22～24年頃は280万

人ほどだったので、1つのエリアの中でラジオ体操や盆踊りができていました。今は、子どもの数も減っているので、なかなか1つのエリアで行事をするというのが難しくなっています。しかし、時代により要請やニーズが異なっても町内会と連携を取っていけることはたくさんあるのではないかと考えています。例えば、団塊の世代が定年後に町内会のお手伝いをしてくれるとか、皆さんのようなボランティアにも手伝ってもらえれば、要援護者への見守りを町内の中でできるようになって、新しいニーズに答えていけることになります。このようなことを話しながら町内会の加入促進を進めているところです。

1番のネックはメリットがないと言われるところですが、何かないとだめな時代なのでしょう。ボランティアで活動している皆さんの場合はさまざまな人と触れ合っているから「そんなことはない。」という意識があると思うのですが、町内の活動となるといろいろ出てきます。

大学生で町内会に入っている人はきつくないと思いますが、どうでしょうか。

【参加者A】

そうですね、いないと思います。

【市長】

そうですね。でも、釧路に限らず、どこの町に居ても町内会があって、町内会が大切だから今すぐ加入しなさいということではなくても、PRしていくのは大事なことだと思います。PRの仕方を考えながら、学生の人たちにも理解していただきたいですね。

【参加者A】

私は山形の出身で、実家は田舎だということもありますが、町内会の活動が盛んで、行事なども回覧板を通じて知っていました。大学生になって釧路にくるとき、両親に「釧路にも町内会があるはずだから入りなさい。」と言われてきました。去年までは下宿だったので町内会のことは知らなかったのですが、今年から一人暮らしを始めて、町内会があるのかなと思って、不動産会社の人に聞いてもわからなく、家にチラシが入ってくることもないので勧誘されたこともありません。また、町内会に入るということは、会費も払わなければならないと思うのですが、町内会でどのような活動をしているということを知らないと払わないと思います。

【参加者B】

たしかに勧誘されたことがないですね。

【参加者D】

どうやって町内会へ入るのだろう、どういったことをしているのだろうと思います。

【参加者A】

地元だと町内会の集会在どこでやっているか分かったのですが、芦野だとどこで集会をしているのかもよくわかりません。

【参加者B】

僕が住んでいたところは少し変わっていて、100世帯くらいあるマンションだったのですが、マンション自体が町内会でした。マンションの中で古新聞を集めていました。そのため、誰が何号室に住んでいる等もわかっていましたし、狭い中なので集まれるというのもあると思います。

【参加者C】

お聞きしたいことがあるのですが、札幌は70%で釧路は50%ということで、なぜこんなに差があるのでしょうか。

【市長】

町内の中でアパートとかに住んでいる転勤族の人は入らないと聞きます。先ほどお話がありましたが、札幌では1つのマンションで町内会が形成されていたりして、会合などもマンション内で行われたりします。この点が釧路では少ないのです。何よりも意識が違うので高めていきたいと思います。

【参加者C】

札幌だと、マンションなどで町内会を作っているからそこでメリットが生まれているということなのではないでしょうか。

【市長】

1つの義務みたいなものなんでしょうね。

【参加者C】

入るのが当たり前みたいな感じなんですね。

【市長】

そういうことなのです。1つのブロックになっていますから、町内会に入っていないと住みづらいですよ。釧路でも公住などに住んでいる人は町内会や自治会みたいなものに加入しているのです。

【参加者C】

釧路公立大学の学生が加入しない。知らない人も多いのですが、公立大生の構成をみると釧路出身は一握りで、ほとんどが釧路以外の学生です。卒業すると釧路から離れていく人も多いと思います。そんな中で公立大生が町内会に入るとするのは難しいのかなと思います。

【市長】

先ほど、ごみの話が出ましたが分別収集推進協力員制度という形の中で、ごみ分別、有料化を進めており、町内会の中でもしっかり取り組んでもらうようにしています。また、環境美化などもそうです。小さい中でも進めてもらっています。全部がボランティアという中で、お願いしづらいところですが、協力いただいています。

町内会にいるから安心・安全だ、ということがこれからのキーワードだと思っています。

今、一人暮らしの高齢者が2万8千人ほどいると言われていています。釧路は雪が少ないですが、年に何回かの雪かきを、一人暮らしの高齢者の代わりに町内会でやるということもできると思います。「〇〇さんは体調悪いからみんなで雪かきしよう」という、そんなまちにしたいのです。

【参加者A】

大学生が町内会に参加しないとのイメージがあるのは、町内会がこんな活動をしているから大切だということが見えていないこともあると思います。

【市長】

今はそうですね。私自身も大学生のときに町内会に入っていませんでした。

でも、いろいろな形で学生の方たちに協力してもらえたらと思っています。

【参加者D】

10月から「町内会に入りませんか」というPRが始まると聞いたのですが、私たちボランティアサークルの人だけではなく、もっと幅広い人に、大学生を含めて伝えてほしいので、新しいPRの方法を考えてほしいと感じました。やっぱり、知らないに興味をもちません。私たちも今回、

市長さんと話がしたいと思ったので町内会について調べる機会があったのですが、普通の大学生だと機会がないと思うので、きっかけづくりのためにもPRをしてほしいです。

【市長】

いろいろ調べてくれたんですね。町内会の仕組みなども含めてPRが必要だと思います。町内会の役員の方々が個別に1戸1戸声掛けをしていくときに、相手によってどのように説明をしているのか、どうすれば理解していただけるかについて考えていかなければならないと思います。

（他の町内会との事業連携）

【市長】

他の町内会と共同して進めていくべきでは、ということに関しては、町内会が480あって、地区連が40あり、連携していることにはなっているけれど温度差があります。例えば、公園などの美化活動に協力をいただいている町内会もあります。ボランティアと一緒に、積極的に参加しますよと言っていただけたところとそうではないところがあるのですが、行政から「やってください」と言いづらいところです。



子どもの行事に関してですが、夏休みのラジオ体操がありますが、私のいる町内会では、新1年生には記念品を渡しているのですが、今年は1人でした。去年は0人です。このように規模が小さかったり、子どもが少なかったりする町内会だともできません。児童館があるエリアだと児童館には協議会があって、その協議会に町内会の人に入ってもらって運営などを進めています。その協議会で、毎日ではないとしてもラジオ体操をやったりしています。

町内会に1人でも多くの人に入ってもらうためには、さまざまな手法を考えていかなければならないという認識はもっています。

【参加者D】

町内会で何かをするときに、町内会によって規模が違うということだったので、できることが限られてくる町内会もあると思います。そこで、私たちのようなボランティアの人たちと連携を取れるような体制作りのようなものが必要かなと思いました。

【市長】

そうですね。皆さん協力してください。町内会に入ってくださいということではなく、町内会の行事に学生が参加するということは、とてもインパクトがあると思います。縁あって釧路に来てくれたと思います。さまざまなボランティアの活動もあると思いますが、町内会の行事に学生の皆さんが参加してくれることによって、町内会に入るのが普通だというように意識も高まるものと思います。

（子育て家庭へのPR）

【参加者E】

私の実家の町内会では、今年の夏も子どもを主体とした盆踊りを行っていましたが、ビンゴ大会

をしたり焼肉をしたりして交流を深めています。子ども同士の交流を深めて他の町内会にも広めていっています。また、ゴミ収集もあるのですが、参加するだけで交流が深まるようです。また協力しあったその成果を市に報告して地域全体の数字を出したりして、町内会をアピールして活性化につなげています。また、子どものためのイベントなどを考え、交通安全教室なども行っています。私は釧路の人は運転が荒いなと感じています。ですから、釧路でも町内会で交通安全教室などを増やしていくのもいいのではないかと思います。

【市長】

そうですね、時代時代のニーズというものがあると思います。釧路でも町内会によっては焼肉などのイベントをやっているところがあります。会費は町内会によって違いますが、会費の一部はイベントなどの費用になっています。例えば私の町内会では、花見などを行う際、参加する子どもは無料、大人は500円などで足りない分を町内会費から賛同いただきながら開催しています。釧路の鳥取地区では、鳥取ドームを使って千人ほど集まって盆踊りをしています。きっと、町内会の人だけではないと思うのです。地域ごとで若干の差はありますが、このようなことをやっているところもあります。子どもにとって良い環境を作っていくということは大事なことです。

（自由討議）

【参加者A】

私たちはふれあい広場など、子ども達にも喜んでもらえるイベント等のお手伝いをしているのですが、この広場に参加する子どもはほかのボランティア団体のお子さんが多く、一般のおさんが少ないのです。ふれあい広場は障がい者の方と触れ合ったりするイベントでもあるので、小さいうちからこのようなイベントに参加して触れ合ってほしいと思うので、子ども達が参加できるようなPRをしてもらえたらと思います。

【参加者C】

イベント会場に来る方法としては、子どもだけでくることはなく、親と一緒に来ると思うのですが、例えば、交流センターまで来る場合、車で来る人が大部分で、公共の交通機関を使うという機会が釧路では減ってきていると思うのです。バスに関しては、今日新聞で28日に市長自らノーマイカーデーなのでバスでお帰りになったと拝見しましたが、釧路の場合、土日の方がバスの便が少ないですね。イベントは大勢の人が集まるから公共の交通機関を利用するというのが大事だと思うのです。公共の交通機関を利用するために今後どうしたらいいのか、市民の人たちが公共のバスを利用するように積極的にアピールしていくべきではないかと思います。

【参加者E】

町内会では回覧板でイベントの情報とか回しますよね。それを見て行くか行かないかを決めるのは親だと思うのです。そのイベント情報を回覧板で回したり、チラシを配ったりするだけではなく、どうすれば人を引きつけるかというのが一番大切だと思うので、情報の流し方を考えたらいいのではないかと思います。テレビやラジオで流すとか。学生であればスポーツ振興で野球やバスケットボールなど、子どもなら景品など、子どもの好きそうなことを考えて、子ども・学生・高齢者などの枠でどういったことをしたらいいのか考えていけば少しでも活性化すると思います。町内会の一人一人が方向性などを真剣に考えて話し合っ、いろいろな意見を出し合っ一つ一つ解決していけばいいと思います。

【参加者B】

ふれあい広場など、6月・7月に大きなイベントがあって、それ以降は持続的な活動以外はあまりないので、市で何か「大学生が使えるのではないか」といった活動があったらぜひ声を掛けていただけると嬉しいです。

【市長】

ありがとうございます。

（閉会のあいさつ）

【市長】

参加する子どものお話がありましたが、団体の場合は責任の問題があって、任意参加となったりするので、関心のある親やそういうことを進めている親の子どもに限られてしまう実態があります。ただ、何とかPRの手法を工夫して、できるだけ多くの子ども達が参加できるようにしたいものです。やはり触れてみる、体験してみると子どもの吸収力は素晴らしいものがありますから、1回見ると必ず後に生きてきます。そのような、社会のいろいろな体験をできる機会、ふれあい広場もそうですが真摯に考えながら進めていきたいと思えます。

そして公共交通につきましても大変大事なことです。今、大きな課題がある中で、市民の足を守っていかねばなりません。釧路の公共交通機関であるバスは非常に厳しい環境の中にありますが、バス会社とも相談し、また、公共交通をどのように展開するかという協議会も作ってさまざまなご提言をいただいております。イベントと何かを組み合わせる手法も、今後検討していきたいと思っています。

そして、イベントの内容ということではありますが、テレビ・ラジオというのはお金の問題がありますので町内会としても難しいと思うのですが、何か1年に1回でもいろんなことができるような形を作って、とにかく町内会というものを活性化させるということ、これが地域の活性化につながるということを含めて、いろいろと知恵を出し合いながら進めていきたいと思っております。今までは町内会は町内会だけでやっていくという視点だったので、ボランティアとの連携という視点は、さまざまな形でインパクトのある見せ方というのが出来れば、町内会への印象も変わってきます。ぜひともお声を掛けさせていただきたいと思えますし、大学生の加入というのも進めていくようにしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

皆さん、21歳という若さでさまざまな社会活動に入ってくださいっており、とても心強く思います。今日は、いい機会をつくっていただきありがとうございました。